

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和7年 4月 14日			
児童発達支援センター					
自己評価項目		はい	ふつう	ふつう以上	達成や改善すべき点
環境整備	1 利用定員が児童発達支援等のスペースとの関係で確保されているか。	6			
	2 利用定員やその他の状態等に対して、職員の数等を確保しているか。	6			
	3 生活空間は、どこにもわかりやすく構成化された環境になっているか。また、事業所の設備は、児童の状況に応じ、バリアフリー化や視覚的支援、聴覚的支援が適切に行われているか。	6			
	4 生活空間は、清潔で、広さよく過ごせる環境になっているか。また、子どもの通いの通数に合わせた空間となっているか。	6			
	5 必要に応じて、子どもの個別な計画や目標を設定することが図られる環境になっているか。	6			
業務改善	6 事業の計画を定めるためのPDCAサイクル（計画設定と振り返り）に、広く職員が参加しているか。	6			
	7 児童の成長や行動状況により、発達支援の内容等を調整する機会を設けているか。その内容も事業計画に反映されているか。	6			
	8 職員の仕事等を把握する機会を設けており、その内容も事業計画に反映されているか。	6			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6			
	10 職員の業務の向上を図るために、研修を実施する機会や法人内で研修を実施する機会が確保されているか。	6			
適切な支援の実施	11 適切な支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもの発達・療育のニーズや課題を適切に対応し、また、発達支援サービスに計画を作成しているか。	6			
	13 発達支援サービスに計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者が中心で、子どもの成長に際した職員や関係者の間で、子どもの個別の状況を考慮した検討が行われているか。	6			
	14 発達支援サービスに計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			
	15 この計画が計画の状況や、変更されたツールを用いたフォーマットやアセスメントや、日々の観察や記録に基づいたフォーマットやアセスメントを参照する等により確認しているか。	6			
	16 発達支援サービス計画には、発達支援サービスガイドライン（「発達支援サービスガイドラインの活用（『本人支援』）」「障害支援」「移行支援」及び「地域生活」「地域生活」）の活用や、事業計画も踏まえながら、子どもの支援に必要な施設が適切に設定され、その上で、関係する支援内容が決定されているか。	6			
	17 支援プログラムの改善をチームで行っているか。	6			
	18 支援プログラムが変更をしないよう工夫しているか。	6			
	19 この計画が計画に応じて、個別支援と集団支援を適切に組み合わせて発達支援サービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20 支援計画には個別支援と集団支援の両方を含め、その目的や支援の内容や支援計画について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21 支援計画には、職員間で必要に応じて、その目的や支援の内容や支援計画の進捗や変更について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	22 日々の支援に際して記録をとることを徹底し、支援の検証、改善につなげられているか。	6			
	23 定期的にモニタリングを行い、発達支援サービス計画の検証・改善の機会を確保し、適切な対応を行っているか。	6			
	24 発達支援サービスガイドライン（4つの基本原則）を徹底し、改善が行われているか。	6			
	25 この計画が計画で定めるような支援の工夫がされている等、自己決定をする機会を確保しているか。	6			
児童発達支援事業所のサービス提供状況や関係機関との連携	26 児童発達支援事業所のサービス提供状況や関係機関との連携に、その子どもの状況やニーズが反映されているか。	6			
	27 地域の保健、医療（主として児童医療機関）、障害福祉、教育、福祉等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	28 学校との関係性（特別支援、行事・交流の交換、その他の学校関係機関等）、関係機関（自治体の関係機関、児童発達支援センター）との関係性について確認し、適切な対応を行っているか。	6			学校の様子や関係性を確認している。関係機関との関係性については、関係機関との関係性について確認している。
	29 障害児に利用していた学校や関係機関、認定こども園、児童発達支援事業所等との関係で連携体制を構築しているか。	6			学校の様子や関係性を確認している。関係機関との関係性については、関係機関との関係性について確認している。
	30 学校を卒業し、発達支援サービスが卒業後支援サービス事業所等へ移行する等、それまでの支援内容や関係性を確保しているか。	6			学校を卒業する年齢まで対象としていないので、移行支援については今後検討されることと関係機関との関係性について確認している。
	31 地域の関係機関と関係センターとの連携を行い、必要に応じてサービスや支援や相談や相談を受ける機会を設けているか。	1	5		支援センターからの紹介で利用に合った関係機関のサービスや関係機関があったが、今後その関係性を確認している。
	32 発達支援センターや関係機関との関係や、地域の他の子どもと交流する機会があるか。	6			
	33 「自立支援」協議会や関係機関に参加しているか。	6			
	34 計画の中で子どもの状況や関係性を踏まえ、子どもの発達や関係性について関係機関と連携しているか。	6			
	35 関係機関との関係性（特別支援、行事・交流の交換、その他の学校関係機関等）、関係機関（自治体の関係機関、児童発達支援センター）との関係性について確認し、適切な対応を行っているか。	6			
	36 連携関係、支援プログラム、関係機関等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37 発達支援サービス計画を作成する際には、子どもの発達・療育のニーズや課題を適切に対応し、また、発達支援サービスに計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者が中心で、子どもの成長に際した職員や関係者の間で、子どもの個別の状況を考慮した検討が行われているか。	6			
	38 「発達支援サービス計画」を定めながら関係機関の活用を行い、関係機関からの関係サービスに計画の活用を行っているか。	6			
	39 関係機関からの関係サービスに対する関係機関の活用、関係機関との関係性を確保しているか。	6			
関係機関との関係性	40 関係機関の活用を支援することや、関係機関等を開発することにより、関係機関等と交流する機会を設ける等の支援を行っているか。また、関係機関等と交流する機会を設ける等の支援を行っているか。	6			
	41 この関係機関との関係性について、関係機関等を開発することや、関係機関等と交流する機会を設ける等の支援を行っているか。	6			
	42 関係機関の活用について、関係機関等を開発することや、関係機関等と交流する機会を設ける等の支援を行っているか。	6			
	43 関係機関の活用について、関係機関等を開発することや、関係機関等と交流する機会を設ける等の支援を行っているか。	6			
	44 関係機関の活用について、関係機関等を開発することや、関係機関等と交流する機会を設ける等の支援を行っているか。	6			
	45 関係機関の活用について、関係機関等を開発することや、関係機関等と交流する機会を設ける等の支援を行っているか。	6			
	46 関係機関の活用について、関係機関等を開発することや、関係機関等と交流する機会を設ける等の支援を行っているか。	6			
	47 関係機関の活用について、関係機関等を開発することや、関係機関等と交流する機会を設ける等の支援を行っているか。	6			
	48 関係機関の活用について、関係機関等を開発することや、関係機関等と交流する機会を設ける等の支援を行っているか。	6			
	49 関係機関の活用について、関係機関等を開発することや、関係機関等と交流する機会を設ける等の支援を行っているか。	6			
	50 関係機関の活用について、関係機関等を開発することや、関係機関等と交流する機会を設ける等の支援を行っているか。	6			
	51 関係機関の活用について、関係機関等を開発することや、関係機関等と交流する機会を設ける等の支援を行っているか。	6			
	52 関係機関の活用について、関係機関等を開発することや、関係機関等と交流する機会を設ける等の支援を行っているか。	6			
	53 関係機関の活用について、関係機関等を開発することや、関係機関等と交流する機会を設ける等の支援を行っているか。	6			
	54 関係機関の活用について、関係機関等を開発することや、関係機関等と交流する機会を設ける等の支援を行っているか。	6			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援マレーネ			
○保護者評価実施期間	令和7年3月10日 ～ 令和7年3月25日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数)	17名
○従業者評価実施期間	令和7年3月26日 ～ 令和7年3月28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月7日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士と作業療法士、臨床心理士が協働でプログラムを立案することにより、多角的な専門的支援を実施できる。	専門職が発達検査を行うことで個別の問題点を抽出している。	個々の職員の研鑽によりスキルをアップしていく。
2	作業療法士、臨床心理士が個別対応のセラピーを行う。	利用者の状況により個別か集団の対応を検討していく	個別で対応する場合には現在所属する集団（学校、児童クラブなど）の情報を収集し、個別での課題を解決することで集団参加が出来るようになるのかの考察が必要であり、学校訪問などの機会も作れるか検討していく。
3	ベテランのスタッフがいる。	今まで経験した中で類似していると思われる利用者に関後の見通しを伝える（そういう場合にはこうなったケースがあるという伝え方）ことや、そんなケースもあった（特別に孤独ではない）と伝えることで寄り添った対応ができていたのではないかと考える。	ベテランスタッフの経験を、経験の浅いスタッフにも伝えていくことで対応の幅を広げていく社内研修も行っていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎がない事で連れてくる保護者への負担が大きい事。また通ってくる本人の体力面の問題もあり、思うような通所の機会の確保が難しいことがある。		保護者が連れてこなければならぬ点を保護者との対話の時間が持ちやすい利点に変換し、保護者対応は出来ていると思われる。通所が難しい場合送迎のある他事業所の紹介やリモート、長期休みでの利用を考えるなどどのような形態が療育を受けるメリットになるのかを考えていきたい。
2	通所頻度が他事業所に比べて少なくなっている。	年齢別に分けているグループや多機能であることから参加できる曜日や頻度に制限を設けている。	回数が少ないことでより充実した内容が求められることを自覚し、プログラム立案に取り組んでいる。また、保護者と直接話す機会が持てるので要望を伺ったり活動内容のフィードバックを行うことで日常生活に汎化して頂けるように取り組んでいきたい。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援マレーネ

公表日 令和7年4月14日

利用児童数 31名 (令和7年 3月31日現在)

回収数 17名 (54.8%)

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	17					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	17					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	17					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	17					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	17					
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。			17		特に希望しない	学校、習い事その他で交流する機会はずでに持っているので、放デイに対しては要望されていないのでしてない。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	17					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	14		3			お知らせの掲示はしており、聴き取りの中で必要な保護者にはペアトレの紹介をしている。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	17					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	17					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	17					
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	17					
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	17					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	17					
非 常 時 等 の 対 応	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	17					
	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17					
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17					
満 足 度	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17					
	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	17					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	16		1		放課後の外出そのものを嫌がる。	送迎がないこともあり体力的に通所が難しいことが考えられ、長期休暇の間の通所を検討している。
	29	事業所の支援に満足していますか。	17					